見てみよう！歴史災害記録と旬のあいち

February 2024 vol.118

◆ 北向観音堂

所在地：長野県上田市別所温泉

交　通：上田電鉄別所線「別所温泉」駅 南西 約 600m

上田市の別所温泉にある北向観音堂は、北向きに建つ全国でも珍しい造りで、北向観音の名で親しまれています。南向きに建つ長野市の善光寺現本堂と向かい合わせになっていること、また、善光寺本尊の阿弥陀如来が「極楽往生（来世利益）」を叶えるのに対し、北向観音堂に祀られる千手観音は「現世利益」を叶えるとされることなどから、「善光寺だけでは片参り」と言われています。この言われの経緯は、善光寺地震にあるとも伝わっています。

善光寺地震は弘化 4 年 3 月 24 日 (1847 年 5 月 8 日) 午後 10 時頃発生、震源は善光寺の北約 5km と推定される M7.4 の地震で、善光寺付近でも高さ 2m を超える段差が見られます。地震の折、善光寺では前立本尊の御開帳中であったため、境内や門前町、近隣の宿場などに多くの参詣人が訪れており、住民のみならずこうした旅行者も被災しました。

観音堂の壁には、善光寺地震の際の様子が描かれた絵馬が掛けられています。この絵馬は、尾州智多郡（知多郡）の市之助という人物が奉納したもので、地震直後の善光寺本堂や、倒壊した建物の下敷きになった人々、燃えさかる炎などとともに、旅装の市之助が仏様に導かれ難を逃れる姿が描かれており、一命を取り留めた経緯が記されています。

市之助が奉納した絵馬

「同郷の者十五人と御開帳を機に善光寺にやってきた。道中で、夢まくらに北向厄除観音があらわれたため、十五人とわかれて北向観音に参拝して、稲荷山で再び一緒になり善光寺に参った。その夜、五ッ半時に、大地震に出遭った。同行同宿の者が残らず災難に遭ったが、私（市之助）一人は無難のうちに逃げ出すことができた。懐中には北向観音のお札があり、観音さまがお守りくださったにちがいない。無事帰国できたのでお礼申し上げる」（『信濃絵馬』より）

市之助一行が合流した稲荷山宿は、善光寺街道の名で親しまれた北国西脇往還最大の宿場町で、宝暦 11(1761) 年の火災を受け道幅を 5 間 (約 11m) に拡幅してありましたが、地震による家屋倒壊と火災で壊滅的な被害を受けました。

文化 7(1810) 年刊行『旅行用心集』の「道中用心六十一ヶ條」には、現代にも通ずる旅の心得が記されています。「駅舎（はたこや）へ到着して第一に其地の東西南北の方角を聞定（ききさだめ）、次に家作（やつくり）雪隠裏表（せっちんうらおもて）の口丶等を見覚置事（みおぼえおくこと）、古教（ふるきおしえ）なり」「霖雨（ながあめ）降つゞきたるあかりに山欠落（やまかけおつ）ること所丶にまゝあること也、加様の折は山峡（やまぎし）の大厳石（だいがんせき）等有下（あるした）の泊屋（とまりや）又は川峡（かわきし）に望（のぞみ）たる家居（いえい）等に泊るべからず」「旅宿（りょしゅく）にて出火ありて若（もし）近火ならば、早速立したくいたし、身の廻りの大切なる物を持除（もちのき）、其上にて風すじを見計ひ、荷物等あらば取出へし」

市之助がこうした心得を意識していたかどうかは定かではありませんが、当時から旅の心得集は存在していたようです。現代は、江戸末期とは都市の様相が大きく変わり、想定される災害と被災状況も変わっています。外出先での備えも二重三重の想定をし、時々見直してみてください。

◆ 災害にまつわる碑や史跡には、実際にその地域で起こったことが記録されているだけでなく、当時の人たちの思い（二度と被害を繰り返さないように、など）が込められています。碑や史跡の前では、災害が実際にこの地域で起こるということを実感していただくとともに、そうした先人たちの声に耳を傾け思いを巡らせ、身の回りの備えにつなげ、これからの防災に活かしてください。

◆見てみよう！歴史災害記録と旬のあいち バックナンバーから

● 御厨神社 (vol.7,2014.11)

所在地：豊橋市西七根町

交　通：JR 東海道本線「二川」駅 南 約 5.5km

渥美半島は、しばしば大規模な地震による津波が襲う地域で、嘉永 7(1854) 年 11 月に発生した安政東海地震の際にも、大きな津波が襲来しました。渥美半島の状況については種々の記録がありますが、高さ 30m にも及ぶ巨大な津波が襲来したことが記された記録もあるほどです。

この安政東海地震による津波の凄まじさを物語る一枚の絵馬が、豊橋市西七根町の御厨神社に奉納されています。

絵馬は「縦 65 ㎝、横 82 ㎝のカンバス一面は異様とも云える深紅色が塗られ、地震、津波の尋常ならぬ恐ろしさを直感させ」るものであり、「画面のほゞ中央部には荒浪に押し付けられたかの傾めした松の根元部に、一隻の漁船が、さか巻く白浪をかぶり身動き出来ない様に描かれ、更に絵面中央左側には、これ亦直径 50 ～ 60 ㎝程かと想わせる根元むき出しの古松の枝に手こぎの小船が渦巻く荒波の中に漂泊している。」様が描かれています。（『一名主による宝永地震文書と二つの神社の奉納絵馬』より）

絵馬には大木が描かれていますが、渥美半島の沿岸部では大木はめったに成長しないので、かなり内陸のほうまで津波が押し寄せたことが想像されます。

地震の際、同神社は海岸線からほど近いところにありましたが、地震から 13 年後の慶応 3(1867) 年、約 180m 後方の現在の地に再建されます。絵馬はその際に、地元の網元の方が「舟だけでも助かったのは、神社のおかげ」と感謝し、打ち上げられていた舟の部材を額として奉納したものです。

◆詳細は、見てみよう！歴史災害記録と旬のあいち vol.7（https://www.gensai.nagoya-u.ac.jp/rekishijishin/geppo.html）をご覧ください。

★ 上田氷灯ろう夢まつり

上田氷灯ろう夢まつりは、別所温泉の北向観音堂や温泉街を幻想的な明かりで彩るイベントで、毎年 2 月上旬に開催されます。（2024 年は 2 月 8 日 (木) から 2 月 12 日 (月・祝)）

北向観音堂ではライトアップやキャンドルアートが行われ、参道は氷灯ろうやボールライトで彩られるほか、石湯～大湯区間の外湯、別所温泉駅、上田駅構内にも灯ろうがともされます。2 月 10 日から 12 日の午後 4 時 30 分から午後 9 時 30 分の間は、「別所線 de 氷灯ろう！運賃無料！」として、別所温泉駅での Ticket QR を使用した乗車または降車により、別所線の運賃が無料になるキャンペーンも行われます。

うえだトリップなび HP より

～鉄道で巡る～

上田電鉄別所線は、上田駅から別所温泉駅まで 15 駅 11.6km、豊かな田園地帯を約 30 分で結ぶ路線で、沿線には数多くの文化財を始め、大学や研究開発の拠点となっている産業団地があります。

丸窓電車モハ 5251
別所線にのろう！HP より

昭和 61(1986) 年までは、別所線のシンボルでもある丸窓電車モハ 5250 形が運行していました。モハ5250形をかたどった「まるまどくん」を始めとした新旧車両をデザイン化したシンボルマスコットが、路線を盛り上げています。

●ブレイクタイム●

♪ 国宝安楽寺木造八角三重塔

安楽寺の三重塔は、日本に現存する唯一の木造八角塔で、年輪年代測定から 1290 年代には建立されていたことが判明し、国内最古の禅宗様建築であるとされています。初層に裳階（もこし）（ひさし）が付設されているため四層に見えますが、構造上は三重塔です。幕府の連署（副執権）であった北条義政が別所温泉のある塩田平に館を構えたことなどから、当時の最新の技術・文化が多く移入されていたと考えられています。昭和 27(1952) 年には松本城とともに、長野県の建造物で最初の国宝に指定されました。

安楽寺 HP より

◆ この地域の災害に関する碑・史跡、資料・体験談集、地域に残る古文書、研究資料、郷土史研究者・団体などの情報がありましたら、gensaisan2014@gmail.com まで情報をお寄せください。

◆ この地域の歴史災害記録をオンラインツアー形式、マップ形式で紹介しています。各地の碑や史跡等にご興味をお持ちいただけましたら、『災と Seeing』のホームページ（https://www.saitoseeing2020.jp/）をぜひご覧ください。

（発行：減斎の会・名古屋大学減災連携研究センター　2024 年 2 月）